

山形県国有林野等所在市町村長有志協議会を開催しました

令和5年10月5日(木)、山形県最上町の「最上町立中央公民館」で令和5年度山形県国有林野等所在市町村長有志協議会を開催しました。この協議会は、地域社会と国有林野事業の連携の強化を図り、地域の社会経済の発展と国有林野事業の円滑な遂行に寄与することを目的として設置され、東北森林管理局管内5県でそれぞれ開催しているものです。

協議会は、近年、庄内・置賜・村山・最上の各地域の持ち回りで開催しており、今年度は最上地域に所在する最上町で開催しました。当日は、県内の国有林野が所在する市町村から15名の市町村長・副町村長をはじめ担当部課長等のご出席をいただいたほか、山形県から福井森林ノミクス推進課長、坂本副主幹にご出席をいただきました。東北森林管理局からは山根計画保全部長、田島企画調整課長、各森林管理(支)署長、朝日庄内森林生態系保全センター所長らが出席しました。

冒頭、伊藤勝最上町副町長に開催地からのご挨拶をいただいた後、協議会代表世話人の仁科洋一小国町長に議事を進行いただき、森林管理局・署から「令和6年度概算要求の市町村向け予算」、「各署等の市町村への支援・協力」について、山形県から森林環境譲与税の動向について、それぞれ情報提供を行ったほか、市町村からお寄せいただいた国有林に対するご意見・ご要望への対応等について説明を行いました。

その後の意見交換では、森林環境譲与税の活用状況や森林の教育活動の場としての利用、造林・保育作業の低コスト化・省力化、再生エネルギーの動向、松枯れ被害対策等多岐にわたる分野について、ご出席の全市町村から意見をいただき、情報が交換されました。議事は、来年度、当協議会を庄内地域で開催することとして閉会しました。

翌6日(金)には、高橋重美最上町長にご案内をいただいて、21名の参加者が、最上町が進める木質バイオマス資源を活用した熱供給に関連する施設である「(株)もがみ木質バイオマスエネルギー」、「木質バイオマスプラント」、「若者定住環境モデルタウン」を見学させていただきました。

最上町は面積の大半をを森林が占め、森林整備を通じて発生する「間伐材」に「燃料としての価値」を持たせ、エネルギーの地産地消と循環型社会の実現を目指す取組を進めています。また、山間部に所在し雪国でもある特質を活かした先進的な住環境を提案されています。木質バイオマスプラントから供給される熱はモデルタウンのほか医療福祉施設へも供給されており、入居されている方が育てられた森林資源が今、熱源として利用されているとのことでした。地域に存在する豊富な資源を活用する取組について、各施設のご担当者からそれぞれ丁寧なご説明を賜り、参加者が熱心に質問をされている様子も見られました。

今後ともこのような場を通じて、市町村等関係者との連携、さらには関係者間の連携が深化する取組を進めながら、地域の課題の解決に取り組んでまいります。ご多忙の中、会場提供や現地見学のご対応を賜った最上町様をはじめ、協議会にご出席をいただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。



